

8. きょう土を開く^{ひら}



めあて

- 開拓の前の十勝平野には、どのような人が住んでいたのでしょうか。
- いつごろから開拓が始められ、どのように進められたのでしょうか。
- 開拓をしてきた人々には、どのような苦勞があったのでしょうか。
- 開拓の中心になった人々には、どのような人がいたのでしょうか。

てびき

「かわってきた人々のくらし」の学習をふり返ってみましょう。



「上の写真はだれなんだろう。」



「ずいぶん昔の人みたいだね。」

ろみさんたちは、3年生で学習した「かわってきた人々のくらし」を思い出し、士幌町や十勝の昔の人々のくらしについてくわしく調べてみることにしました。

[1] 十勝の開拓のあゆみ^{と かつ}

(1) 開拓前の人々のくらし

●石器や土器を使った人々^{せつき つか}

ろみさんたちは、開拓前の人々のことを調べるために、帯広百年記念館や、上士幌町のひがし大雪博物館へ行って、調べてみることにしました。



しまきいせき おりべいせき
嶋木遺跡や居辺遺跡に住みついた人々[ひがし大雪博物館資料]

帯広百年記念館のおじさんの話

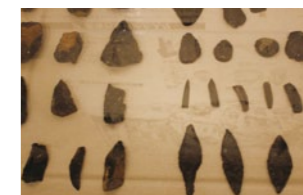


およそ2万年ほど前、今よりも気温が8度ぐらい寒い時期が来て、北海道とシベリアが陸つづきだったころ、大陸からマンモスなどのえものを追いかけてきた人々が十勝に住みつくようになりました。このことは、上士幌町の「嶋木遺跡」から出てきた石器などからもわかります。

士幌町では、中士幌の音更川えん岸、西上音更地区、上居辺や下居辺の居辺川えん岸からも土器や石器、住居あとなどが見つかっていて、1万数千年以上も前から人が住んでいたと考えられています。

つかむ

大昔にはどのような人が、どのようにくらししていたのでしょうか。



嶋木遺跡や居辺遺跡から出た石器
[ひがし大雪博物館資料]

ことば

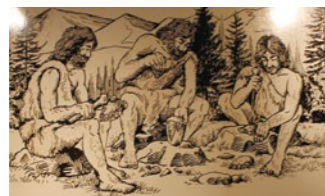
●原野
自然のままの野原



「ずいぶん昔から住んでいたんですね。」



「どんな生活をしていたのですか。」



黒よう石で石器をつくる人々



たてあな住居を復元したもの

帯広百年記念館のおじさんの話



およそ8千年前になると、十勝平野にはカシワやミズナラなどの林ができて、山ブドウやクルミ、ドングリなどの木の実はたくさんありました。ねん土で作った土器を使って食べものをにたきしたり、数けんのたてあな住居でムラが作られました。このことは、音更川、居辺川、士幌川などの川に近い小高いところからたくさんのいせきが見つかることからわかります。

●アイヌの人々の暮らし

ろみさんたちは、次にアイヌの人々の暮らしについて調べてみることにしました。

つかむ

アイヌの人々は、いつごろ、どのような暮らしをしていたのでしょうか。

クイズコーナー 今の地名とアイヌ語の地名をつなごう。

十勝 帯広 音更 芽室 幕別 士幌川

() () () () () ()

- ① メムオロペツ
- ② マクンペツ
- ③ トカプシ
- ④ シュウウホロ
- ⑤ オペレペレケッ
- ⑥ オトプケ

★地名の由来には、他にもいろいろあります。<答えは、125ページにあります。>

明治になって、和人が北海道に入ってくる前から、十勝には、「十勝アイヌ」とよばれる人々がくらしていました。



アマツポ(しかけ弓)



チェプケリ(サケの皮のくつ)



アットウン(着物)

ろみさんたちは、アイヌの人々の暮らしについて、「アイヌ民族：歴史と現在」という、学校にある資料で調べることにしました。

てびき

もっとくわしく調べたい人は、家庭で調べたり総合学習で取り組んでみましょう。



「アイヌ語をもっと知りたいね。」



「どんな暮らしをしていたんだろう。」



「今はどうしているのかな。」



チセ(住居)



チセの内部[帯広百年記念館資料]

ことば

●アイヌ

アイヌ語で“人間”をあらわします。

●和人

日本の中で一番数の多い人たちのことを、アイヌ民族に対して「和人」とよびます。

(2) 開拓の様子

●十勝の開拓と人々

つかむ

十勝は、どのような人たちによって、どのように開拓されたのでしょうか。

ろみさんたちは、111ページの写真の人について先生から聞いた「依田勉三」「晩成社」という言葉をキーワードに、手分けして調べてみることにしました。



「わたしは、図書館で調べるわ。」



「ぼくは、帯広百年記念館に行ってみる。」



「わたしは、インターネットで検索するね。」



帯広中島公園にある像

てびき

地図帳で、静岡県伊豆市からの足取りをたどってみましょう。

しおりさんが調べた「つらい道のり」



1883 (明治16) 年3月、依田勉三ら晩成社の人々はふるさとの静岡県伊豆を出発しました。横浜で必要なものをじゅんびし、4月14日に船で函館に着きました。

そこから海と陸の二手に分かれて、目的地のオペレレケッ (帯広) へ向かいました。

しかし、海があれで船がしずみそうになったり、ふぶきの中、雪どけで水のふえた川を歩いてわたらなければなりませんでした。

5月になって、やっと帯広に着きました。出発から2カ月後のことです。

ちからさんが調べた「開拓小屋」



帯広にたどり着いた日から休むひまもなく、雨をしのぐだけのそまつな“ほったて小屋”を作ることからきびしい生活が始まりました。

小屋は、ササ、カヤ、木の皮などで屋根やかべをふき、入り口にむしろを下げました。中は、土間に続いて炉のまわりに小枝、ササ、かれ草などを重ねて居間にしました。



開拓小屋の模型
[帯広百年記念館資料]

ことば

●むしろ

いねのわらであんだしきもの。

ことば

●土間

ゆかが土のまの部屋。

ろみさんが調べた「苦しい生活」



そのころの帯広は、直径1メートルをこす大木と、せたけほどもある草がおいしげる原野でした。晩成社の人々は、のこやかまなどを使って、すべて手作業で開こんしていきました。手にできた血まめはつぶれ、大木1本切りたおすのに1日かかり、その切りかぶの間にひとくわおろしては種をまくという日が続きました。

依田勉三は、このようなきびしいくらしにもたえ、いろいろな苦勞にも負けず、みんなをはげまし、鈴木銃太郎、渡辺勝たちと力を合わせ開拓を進めていきました。しかし、あまりのつらさににげ帰る人もいました。



開拓に使われた道具
[帯広百年記念館資料]

調べてみよう

依田勉三や鈴木銃太郎(芽室)、渡辺勝(音更)、関寛斎(陸別)、二宮尊親(豊頃)など開拓につくした人たちについて調べてみましょう。

と かし どうろ けんせつ しゅうじん どこう ふ
●十勝の道路建設と囚人・土工夫

つかむ

囚人や土工夫とよばれる人たちは、十勝の開拓に、どのように関わったのでしょうか。

ことば

●囚人

はんざいをおかして、けいむしょに入っている人

●土工夫

道路や、水道・鉄道などの工事で働く人。

●鉱山

地面の中にある金・銀・銅・水銀などをほる山。

調べてみよう

開拓のころの生活の様子や使った道具を、ふるさと資料館や帯広百年記念館へ行って調べてみましょう。

ろみさんたちは、晩成社のことを調べていて、ほかにも、十勝の開拓につくした人たちがいることを知り、そのことを先生に教えていただきました。

先生の話



十勝の開拓にとってわすれてならないのは、囚人やタコとよばれた土工夫たち、戦争のころ無理やりつれてこられた朝鮮人や中国人のこです。

十勝では、大津から芽室間の道路が囚人などにより、根室本線の狩勝トンネルが土工夫たちによって開かれました。また、上士幌の勢多水銀鉱山では、100人の朝鮮人が無理につれてこられて働かされました。

これらの人たちは、1日中かんしされてそまつなへやでくらし、休みの日もなく朝早くから夜おそくまで仕事をさせられました。あまりのつらさで病気になったり、にげ出そうとしてつかまって殺されたりしてたくさんの人たちがなくなったそうです。

このようにしてできあがった道路や鉄道は、十勝の開拓の大きな力になりました。

[2] 士幌町の開拓

(1) 士幌をさいしょに開拓した人たち

ろみさんたちは、士幌町の開拓のころのことも調べてみたくなりました。



「3年生の時に、士幌町の昔調べをしたね。」



「ぎふから来た人たちがさいしょだったよね。」



「もっとくわしく知りたいね。」

なかしほろちく にゅうしょく ひと
●中士幌地区に入植した人たち



おおつ しょうりく

おぐらちゅうざ えもん しどうしゃ
 小椋忠左衛門を指導者とした
 ぎふけんみの
 岐阜県美濃地方の人たち63戸約
 260の人たちは、1898(明治31)年、
 大津に上陸しました。帯広をへて音更川にそった中
 士幌下台に入植したのは約30戸の人たちでした。士
 幌町の集団開拓はこのときが始まりなのです。入植した
 ところは、ニレやドロノキがおいげる原生林でした。大人
 たちは、手におのやのこぎりをにぎり、大木を切りたおし、え
 だを焼きました。子どもたちもえだ運びや水くみなどの手
 伝いをしました。そまつな小屋での生活は大変でしたが、みんなで力を合わせて乗り切っていったのです。

つかむ

士幌の地に最初に入植し、開拓した人々はどのようなくらしや苦労をしたのでしょうか。

てびき

学校にある、「しほろのあゆみ」というビデオを見てみましょう。

ことば

●入植

開拓地に入って、生活すること。

●上陸

船から陸地におりること。

●原生林

自然のままです。手を加えられていない林。

(2) 下居辺地区と百戸地区の開拓

● 下居辺地区に入植した人たち

つかむ

下居辺と百戸地区の開拓は、どのようにしておこなわれたのでしょうか。

ことば

● 開こん

山や野を開いて、田や畑をつくること。

中士幌で開拓が始まる少し前のころ、居辺川ぞいの下居辺では、佐野玉治郎、坂本八重作によって開こんが始められ、1902(明治35)年からは、入植者が次々と入ってきて原生林が切り開かれていきました。

下居辺地区は、開こんらい池田町の一部でしたが、生活に不便だったので飯島和吉らが中心となって運動を進め、1933(昭和8)年に士幌に入りました。区いきの変こうを続けてきた士幌は、この時からげんざいの形になりました。

● 百戸地区に入植した人たち

「タンネマップ」(広い原野)といわれた音更川沿岸東地区に1906(明治39)年4月、6戸の人たち(星屋利助、長瀬金弥ら)によって開拓が始められ、しだいに東の方へ広がっていきました。



「それぞれ、開拓した人たちがちがうんだね。」



「どこも原生林だったから苦労したと思う。」



「他の地いきはどうなんだろう。」

(3) その他の地区の開拓

1913(大正2)年には、旧佐倉藩主堀田正恒が、今の佐倉に農場を開きました。この佐倉農場は、多い時には100戸近くの開拓者が入植して農業をおこなってきました。

今の池田町の一部だった上居辺には、1915(大正4)年ころから道内外から開拓者が次々と入植し、開こんを始めました。

同じころ、音更川の西がわにある西上音更、中音更の高台でも入植が始まりました。ウオップ川の下流にマッチ工場ができてにぎわったこともあります。

このころから豆がさかんに作られ、開拓がおこなわれていなかったところでも開こんが始まりました。今の士幌市街に、商店が建ち始めたのもこのころのことです。

昭和の初めころには、残されていた原野の朝陽地区と新田地区に新しく開拓者が入りました。2つの地区とも、水が不便で、土地のじょうけんが悪く大変苦労しました。

このころの農民は、毎年のように冷害やきょう作にみまわれ、くらしはどん底でした。



「それぞれの地区でがんばった人たちがいたんだね。」



「その後はどうなったんだろう。」

つかむ

その他の地いきの開拓は、どのようにしておこなわれたのでしょうか。

てびき

自分の住む地区の開拓のころの様子を、地いきのお年よりに聞いたり、士幌町史「続しほろのあゆみ」などで調べたりしてみましょう。

ことば

● 冷害

夏の気温が低すぎるため農作物のひ害。

● きょう作

ひどく作物がとれないこと。

[3] 暮らしをよくするために



(1) 昔の人々の努力

つかむ

昔の人々の生活の様子や、暮らしをよくするための努力は、どのようなものだったのでしょうか。

ろみさんたちは、「きょう土を開く」を学習して、士幌町が何も無いところから始まったことを知り、げんざいの士幌町になるまでのことを考えてみました。

「開拓の時代から、今の士幌になるまでどんな苦勞や努力があったのだろう。」

「士幌町は、農業がさかんだけど、昔から今のような農業だったのかな。」

「士幌町役場の産業振興課に行って話を聞くといいね。」

ろみさんたちは、農協のおじさんに話を聞きました。

農協のおじさんの話



昔、農家の人々は、みんな苦しい生活をしていました。そこで農家の人たちは、生活をゆたかにするために、みんなで協力して農業をしようとして話し合いました。

- 肥料を安く買えるように共同で買う。
- 農作物は組合で集めて、少しでも高く売れるようにする。
- 農作物は加工して、そのまま売より高くする。

このようにしてできたのが、でんぷん工場です。その後、ポテトチップス・フレンチフライ・コロッケなどたくさん工場ができました。

ことば

- 共同
2人以上が力を合わせてすること。
- 加工
原料に手を加えて新しく別な品を作ること。



「昔の農業は大変だったんだね。」



「みんなで協力して農業を変えたんだね。」



「農業のしかたは、どう変わったのかな。」



調べてみよう

ふるさと資料館へ行ったり、農家のお年よりに話を聞いて、昔の農業についても調べてみましょう。

(2) 士幌高原に立つ三人の像

つかむ

士幌高原の「三雄傑」の銅像は、どのような人たちののでしょうか。

ことば

●雄傑
知恵と勇気のすぐれた人物。

ろみさんたちは、士幌高原に立っている三つの銅像がどのような人なのかを調べることにしました。



おおたかいち
太田寛一像

あきま いさむ
秋間 勇像

いじまふさよし
飯島房芳像



「見たことがあるけど、どんな人なんだろう。」



「町にとって、特別な人なのかな。」



「左の人は、農協記念館にも銅像があったよ。」

調べてみよう

農協記念館や役場へ行ったり、士幌町史「続しほろのあゆみ」などで三人について調べたりしてみよう。

- いつごろの人だろう。
- どのような人だろう。
- どのようなことをした人なんだろう。

[4] 自然かんきょうを守るために



(1) ホタルはなぜよみがえったか

ろみさんたちは、これまでの学習で、開拓者とそれに続く人々の努力で、開発が進められ、住みやすい町ができてきたことを知りました。

しかし、開発が進むとともに、大切な自然が失われてきたことに気づきました。



「みんなの努力で住みやすいくらしになったんだね。」



「でも、いいことばかりなのかな。」



「おじいさんは、川がきたなくなっちゃって言ったよ。」



「地いきのおじいさんに聞いてみよう。」

つかむ

ホタルは、なぜよみがえったのでしょうか。



地いきのおじいさんの話



わたしが子どものころは、あまり家がなく、車や工場も少なかったし、^{のうやく}農薬も今ほど使われていなかったから、川の水も空気がきれいだったんだよ。

山や川は自然のままだね、夏には川で泳いだし、暗くなって家へ帰るころには、虫やカエルがうるさいくらい鳴いてね、ホタルもたくさん飛んでいたんだよ。

でもね、くらしをよくしようと開発を進めていくうちに、ホタルのよう虫が住む川やぬまをよごしてしまったり、畑や道路にしてしまったりしたんだ。みんな、つらいくらしからぬけだすことだけを考えて、自然を守ることなんて考えてなかったんだね。

最近^{さいきん}は、昔^{むかし}のようにホタルを見られるようにしようと、役場が中心となって活動^{かつどう}し、ホタルがよみがえったんだ。毎年たくさんの人たちがホタルを見に来るよ。

113ページの答え

十勝(③), 帯広(⑤), 音更(⑥)
芽室(①), 幕別(②), 士幌(④)

(2) 自然かんきょうを守るために

ろみさんたちは、自然を守るための努力^{どりよく}を、町の人たちが続けていることを知りました。そこで役場^{やくば}へ行って自然を守るためにどのようなことが大切かを聞いてみることにしました。

役場のおじいさんの話



ずっと昔、開拓^{かいたく}をしようとする人たちがこの土地に入ってから今日まで、生活を高めるために、いろいろな開発^{かいはつ}をしてきました。家が建ち、学校ができ、店や工場ができて、わたしたちのくらしはとても便利^{べんり}になりました。しかし、そのために緑が少なくなったり、空気がよごれたりして、生き物^{もの}が少なくなっていました。草や木は、空気をきれいにしてくれる働き^{はたら}をしています。ですから、草や木を大切にしなければなりません。

士幌町では、道路に街路樹を植えたり、よごれた水を川に流さないようにしたり、下水道の整備を進めています。新しい道路をつくる時は、たくさんの人たちの意見^{いけん}を聞いて、かんきょうをこわさないように、十分気をつけています。

みなさんも空きかん^{ひろ}拾いなどをしたことがあるでしょう。これも「かんきょうを守る」ことの一つです。けっしてむずかしいことではありません。まず、自分たちの身の回りに目を向けて、小さなことから始めていくことが大切です。

つかむ

自然を守るためにどのようなことが必要^{ひつ}なのでしょう。うか。

ことば

●かんきょう
自分^{じぶん}をとりまくじょうたい。

ことば

●開発
山林などを切り開いて、しげんや土地を生活に役立たせること。